



訪問マッサージ ミツ星治療院

TEL：070-5020-6164

メール：m3204@y-mobile.ne.jp

いきいき！ニュースレター 9・10月号

同意書が変わることで、患者さんにメリットが。

訪問マッサージを始めるには医師の同意書が必要ですが、10月から同意書の形式が変わります。変わる項目を簡単にいうと、下記の3つになります。

- ・書く項目が増えた
- ・同意期限が3か月から6か月に伸びた
- ・マッサージ継続の再同意時には、「施術報告書」を医師に提出する努力義務ができた

書く項目に関しては、分かりやすい説明マニュアルなどを作成したり、ご説明に伺ったりと、医師の記入時の負担を増やさないよう努力できればと思っています。

同意期限が3か月から6か月に伸びたことは、患者さんにとってよい変更点と思います。歩行困難や寝たきりの方のマッサージですので、再同意のために病院へ行くのが大変な方も多いです。「3か月ごとに同意書をもらいに行くのが面倒だ」と、自費で受けられる方もいらっしゃいましたので、6か月に1回の同意でしたら、患者さんの負担も減るのではと思います。

「施術報告書」の効用

もうひとつ、患者さんに良かった大きな変更点は、「施術報告書」の努力義務です。現在は、医師への報告の義務はないので、施術者の裁量に任されている状態と思います。



残念ながら現在、ミツ星治療院では、連携に繋がるような詳しい報告書を、すべての患者さんの医師に提出しているわけではありません。

本来は提出したほうがよいのですが、実際問題3か月に1回の同意書ごとにボリュームのある報告書を書く時間が取れないという問題がありますので、6か月の期限になったことも作成の追い風となると思います。

代わりに、同意に必要な情報として、事細かな報告書ではないものの、マッサージの目的と方法などに加え、患者さんのお身体の状態や変化を、再同意を依頼する際の依頼状で医師にお知らせしています。

しかし、連携が特に必要と思われる患者さんは、それとは別により詳しい「施術報告書」をお渡ししています。

「施術報告書」には、観察で気付いたこと、患者さんから聞きとったことなどを書きます。

例をあげると、歩行時の力の具合で転倒しやすくなっている、痛みが出る状態(体勢によってや、痛みの度合いなど)、現在の精神状態や意欲、筋肉の状態の変化によって身体の動きが悪くなっている、寝返りのできる範囲の変化、などです。

そうすると、先生の方から「患者さんの日常の暮らしがわかりやすく、治療にも役立つ」とおっしゃってくださったり、「ここが気になるので良くマッサージして欲しい」と要望をくださるなど、コミュニケーションが生まれるようになりました。

ご自身でうまく状態をお話できない患者さんには、私が病院に連絡をして状況を説明し、治療やマッサージ部位の追加に繋がったこともあります。それも、普段医師と報告書で繋がりがあったからこそと思います。

今後は、同意してくださった医師が報告書に目を通してくださることで、そういった繋がりが増え、より連携が広がるのではと思います。そうすることで、患者さんの医療的な困りごとを、少しでも安心に変えるお手伝いができるのではと感じています。

幼少時から、対麻痺(ついまひ)の患者さん

対麻痺とは、左右対称性の麻痺を指し、主に両側下肢の麻痺のことをいいます。
脳性麻痺や脊髄疾患後に起こる麻痺で、幼少時に病気にかかるなど、既往が比較的長い方が多いです。

対麻痺があっても、療育やご自身の工夫等で、日常生活をご自宅で過ごされている方も多いです。
しかし、何らかの理由で自立の状態を維持することが難しくなった時に、変わらず自宅で日常生活を送りたいという希望から、訪問マッサージを利用されることがあります。

脊髄疾患の女性患者さん

乳幼児のころに脊髄小脳変性症を発症し、長く対麻痺の状態にあった患者さんです。
緊張し突っ張る症状の痙性対麻痺がありますが、歩行が可能で、日常生活をご自身の力で言うことができていました。

ところが、60代で転倒し大腿骨を骨折してしまいました。
無事退院できましたが、骨折した側の股関節や膝関節が硬くなり、左右のバランスが崩れたことで、自力歩行が難しくなりました。
以前のように日常生活を送りたいという希望から、柔軟性を取り戻す必要があり、訪問マッサージを利用されることになりました。



マッサージ当初は、歩行器を使って室内を歩くことはできていたものの、足首がかなり硬いため、踵が床に着かず、足先で歩いていました。
その状態では、自力歩行は難しいため、まずは足首のストレッチを行いました。
また、主訴ではありませんが、肩に力が入りやすく、緊張が強かったので、肩腕の筋緊張も緩和マッサージを行いました。

柔軟性の回復と、身体の緊張をほぐすことができたことで、歩行の練習もしっかり取り組むことができるようになりました。
マッサージと併用して、訪問リハビリと療育センターで定期的リハビリを受けており、今は2本杖で歩く練習も始めています。

順調に回復していますが、疲れやすく緊張が溜まりやすい体質のため、身体の状態をつと整えて、転倒しにくい柔軟性のある身体を維持していければと思います。

脳性麻痺の40代男性患者さん

40代の脳性麻痺の男性患者さんは、脳性麻痺によって会話ができませんが、歩行が可能で、日常生活を送れる状態を長く維持していました。
ところが、40歳を過ぎたころから筋力が低下し始め、伝い歩きも難しくなってきました。
少しでも長く日常生活を続けたい、というご家族からの希望で訪問マッサージを利用することになりました。

状態を確認すると、両足の対麻痺と、上肢の関節拘縮があり、脳性麻痺の症状によってじっとしていることの持続が難しい様子でした。

患者さんは会話はできませんが、表情や態度、出す声などで気持ちを表してくださいます。
顔色等確認しながら、安心できるような適切な声かけをし、ゆっくり肘や指の関節など伸ばしていききました。
徐々にマッサージの刺激に慣れ、身体を動かさずにマッサージを受けられる時間が長くなりました。

マッサージを続けることで痙性が減ってきて、それに伴い運動量も上がったため、希望する日常生活も取り戻すことができました。

お気軽にご相談ください。

訪問マッサージ ミツ星治療院

TEL: 070-5020-6164 メール: m3204@y-mobile.ne.jp

